

近位側大腸腫瘍に対する極細径ロングスコープを用いた浸水下内視鏡的粘膜下層剥離術(U-ESD-L)の有効性の検討

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡ください。

研究の目的と方法

当院では早期の大腸がんに対して、内視鏡的粘膜下層剥離術(大腸 ESD)を多く行ってきました。しかし、深部の大腸(盲腸、上行結腸、横行結腸)はファイバーが届きにくく、治療が困難となることがあります。そこで、その困難を容易にするため当院では新しい大腸 ESD 方法に取り組んできました。それらの症例を集約し、有用性を検討いたします。具体的には、これまで使用してきた CO₂ガスを、清潔な生理食塩水に置き換え、内視鏡も通常より細く長い大腸ファイバーを使用して治療を行います。これまでの大腸 ESD より、短時間で、治療成績が高く、合併症と患者さんの体の負担が少ない ESD が実現可能と予想され、本研究ではその実現性を調べることを目的としています。

診療を通じて記録された情報のみを使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 8 月 1 日までに当院で U-ESD-L を受けられた方

使用する試料・情報

年齢、性別、手術日、U-ESD-L 有効性(内視鏡挿入時間、治療時間、切除時間、一括切除率、U-ESD-L から C-ESD へ移行率、止血鉗子使用率)、偶発症の発生頻度

使用開始予定日：2026 年 9 月 14 日

研究予定期間

2026 年 9 月 14 日～2027 年 12 月 31 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。氏名や患者 ID などの個人を特定できる情報を削除し、研究用 ID を付して管理します。患者 ID と研究用 ID の対応表は適切に管理し、外部に漏れないよう取り扱います。研究成果を学会等で発表する予定ですが、個人が特定されることはありません。

〔研究情報管理責任者〕消化器内科部長 庄野 孝

〔個人情報管理責任者〕院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止するとともに、収集した情報等も可能な限り削除します。既に研究成果の公表後などで削除が困難な場合は、その旨をご説明します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係がなく、ご協力いただけない場合も不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することができます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 消化器内科 庄野 孝

住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000（代表）